



私の父の弟、私にとって叔父さんは、アメリカ人にショットガンで頭を撃ち抜かれ、亡くなりました。

それも、お父さん、お母さんの目の前で。

私はこの話を聞いた時、可愛い息子を目の前で殺された、お爺ちゃん、お婆ちゃんはどんなに辛かったか、悲しかったか、恐ろしかったかと思うと共に、心が締めつけられる様な感じがしました。

これは、第二次世界大戦時の沖縄での出来事です。

あの戦争で、多くの悲惨で残酷な物語を小さな島に作ってしまいました。

今、現在の日本でも、東北地方を襲った大地震によって多くの悲惨な家族を作り上げてしまっております。

このような地震や戦争が将来また再びおこる可能性が我々の子供達、孫達の世代であるかもしれません。

いな、我々の世代でも可能性は大いにある訳です。

特に、東海、東南海、南海地震が同時発生した場合、日本沈没の憂き目に合う事も、逃れ難き可能性として存在する訳です。そのような事態に遭遇した時、日本だけでは、いかんともし難いのは火を見るより明らかであります。

そういった未来への危機管理の一環とし世界との心の通った連帯という事が、必要不可欠な事であると思われれます。

我々の米山事業は、そんな未来の安全を担保する一環であるはずで。この様に考えますと、打算で奉仕活動してるかのように感じるのですが、見返りを望まない奉仕でも、必ず何かの良き作用があるはずで。

もちろん、見返りを考えてするものではないと思いますが、世界との友好関係を築くというのは、この複雑怪奇な世界情勢の中にあって一朝一夕に築けるものではないと思いますし、継続的に作り上げて行かねばならないと思います。

その意味においても、米山のような優秀で日本に対する想いを持った人材群を作る事は、必要不可欠な事業かもしれません。

皆さんは如何思われますか？

現在の政治で友好的な関係が築けるのでしょうか？

経済の発展に伴って、真の友情がどれほど作って行けるのでしょうか？

はなはだ、心もとない気がします。

さて、

沖縄の言葉で『けらまー見えしが、まちげー見いらん』というのが有ります。

那覇空港に行かれたら海側に大きな窓が有りますが、その海の彼方に見える島影は慶良間諸島です。

けらまーとはこの慶良間島の事ですが、こんな遠い島は見えるけれど、最も近い睫毛は見えないという意味です。

この言葉の解釈には色々あると思います。

人の事は良く見えるけど、一番身近な自分の事は解らない。

最も身近な家族の事を一番理解してなかったり…

人間近すぎると、かえって見えないもしくは、見なくなる事があると思います。

もっとも近い国、中国や韓国の事を我々はどれほど理解しているのでしょうか？

かつてシンガポールのトップスターである、ディックリーがよく自らを含む多くの東洋人をバナナと揶揄しておりました。これは、バナナは、皮は黄色いけれども、中身は白い。つまり、黄色人種である我々は、黄色い肌に、考え方は全て欧米型だと言うのです。戦後日本人は、脱亜入欧と言って、欧米に学べ続けと頑張ってきました。

お陰で、ジーパンを履きTシャツを着て、ハンバーガーを食べながら、ハリウッド映画を見るような生活を私もしておりました。

正に欧米化の日本人で有ります。そして、やはりお隣、中国の事を全然わかっていませんでした。

でも今、皆さんのすぐ側には、アジアから来た優秀な学生がいるんです。彼等から学ぶべき事も沢山あると思います。ぜひ、この機会を十分活用され、身近な所にも目を向ける機会にさせていただければと思います。